

The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

# 景況レポート

2016年7～9月期 **No.11**

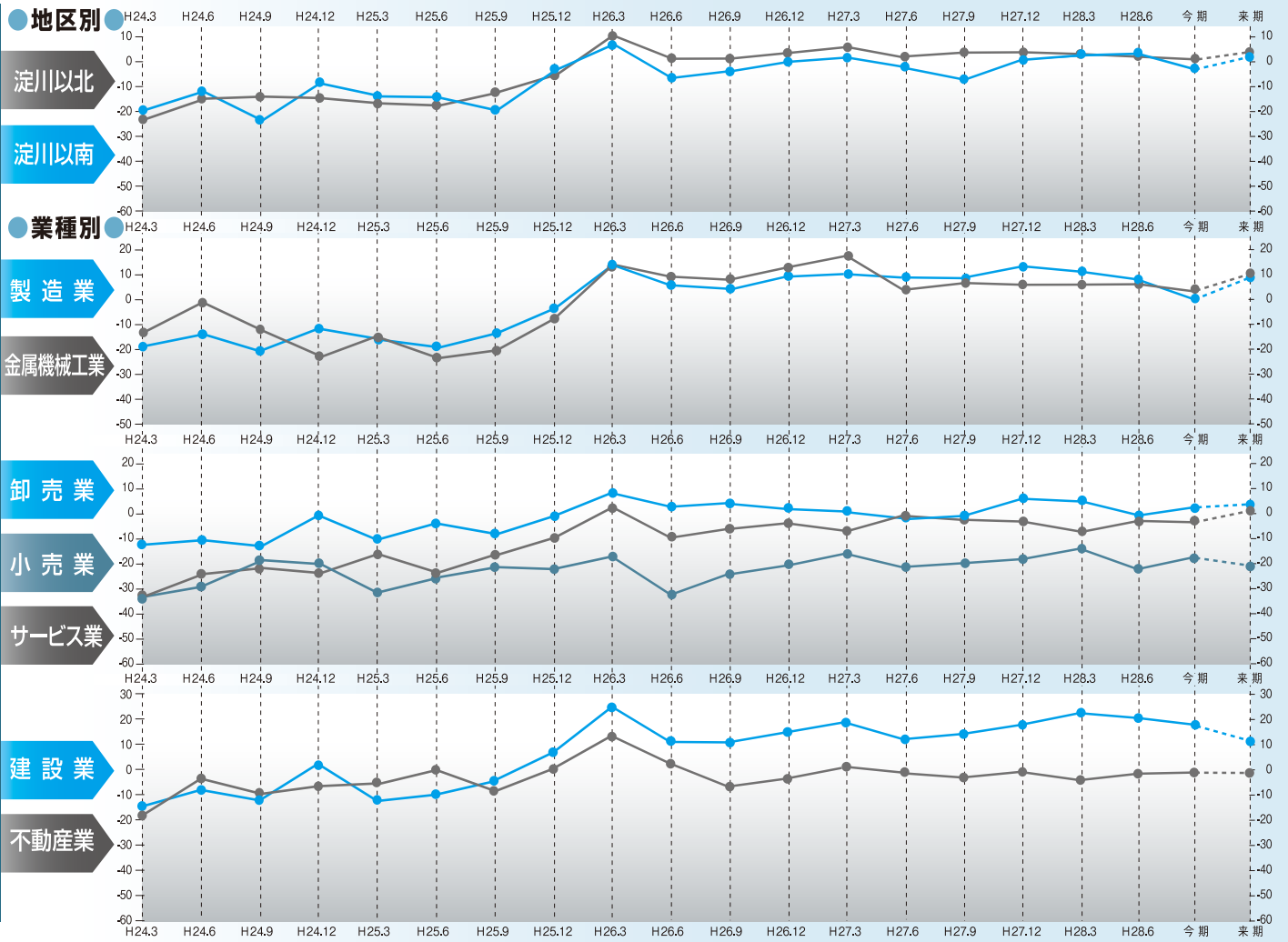
# Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫

地区別・業種別  
業況判断DIIの推移



## INDEX

- 地区別・業種別 業況判断DII 来期予想までの推移・目次……………1
- 調査概要……………2
- 全業種総合……………3・4
- 製造業……………5
- 金属機械工業……………6
- 卸売業……………7
- 小売業……………8
- サービス業……………9
- 建設業……………10
- 不動産業……………11
- 特別調査「中小企業等経営強化法」と「経済対策」について…12・13・14

**〈調査概要〉** 調査対象……地元企業1,200社(有効回答1,200社)  
 調査時期……平成28年9月  
 調査対象期間…平成28年7月～9月期 当期の実績 (28年4月～6月期との比較)  
 平成28年10月～12月期 来期の見通し(28年7月～9月期との比較)  
 調査方法……当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査  
 分析方法……DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

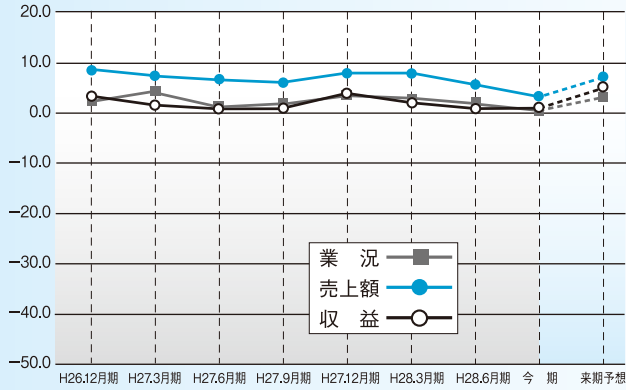
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	33	46	55	17	31	9	9	200	16.7%
金属機械工業	39	58	48	27	15	7	6	200	16.7%
卸 売 業	37	32	25	12	6	6	2	120	10.0%
小 売 業	81	29	20	5	3	7	5	150	12.5%
サービス業	55	44	28	17	24	16	16	200	16.7%
建 設 業	48	60	63	16	5	6	2	200	16.7%
不 動 産 業	87	30	9	2	1	—	1	130	10.8%
合 計	380	299	248	96	85	51	41	1,200	100.0%
(構成比)	31.7%	24.9%	20.7%	8.0%	7.1%	4.3%	3.4%	100.0%	—

\*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北  
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

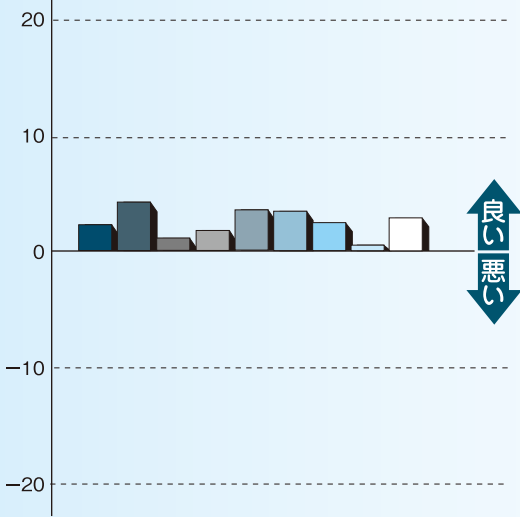
業況・売上額・収益



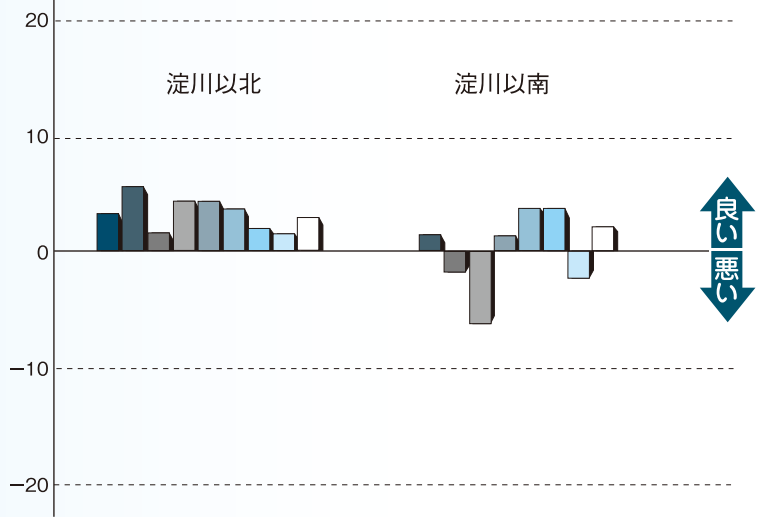
全業種総合 DI値の推移

	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	H27.9月期	H27.12月期	H28.3月期	H28.6月期	今期	来期予想
業況	2.5	4.7	1.0	1.7	3.7	3.6	2.4	0.5	3.0
売上額	8.6	7.6	6.6	5.5	7.7	7.7	5.2	2.6	7.6
受注残	16.1	20.6	10.7	15.7	15.4	14.0	13.0	9.1	13.0
施工高	16.5	15.5	8.5	14.0	17.0	17.0	17.0	13.0	17.0
収益	3.4	1.5	0.7	0.7	4.2	2.4	1.6	0.7	5.1
販売価格	3.4	2.9	3.1	0.8	0.3	1.5	0.6	0.7	1.3
原材料・仕入価格	23.7	20.4	22.2	15.2	11.3	8.6	8.7	6.3	5.8
在庫	-2.1	0.0	-1.6	-2.4	-1.8	-1.8	-1.2	-2.6	-2.9
資金繰り	-5.8	-7.6	-2.2	-6.3	-4.6	-4.7	-4.0	-3.1	-1.7
従業員残業時間	6.7	7.3	4.5	6.4	7.0	6.2	4.7	5.2	5.2
従業員人手	-13.5	-13.5	-13.6	-14.3	-12.3	-14.2	-12.2	-12.2	-12.2
設備状況	-6.4	-8.5	-6.6	-6.5	-5.1	-7.1	-6.2	-6.3	-5.6

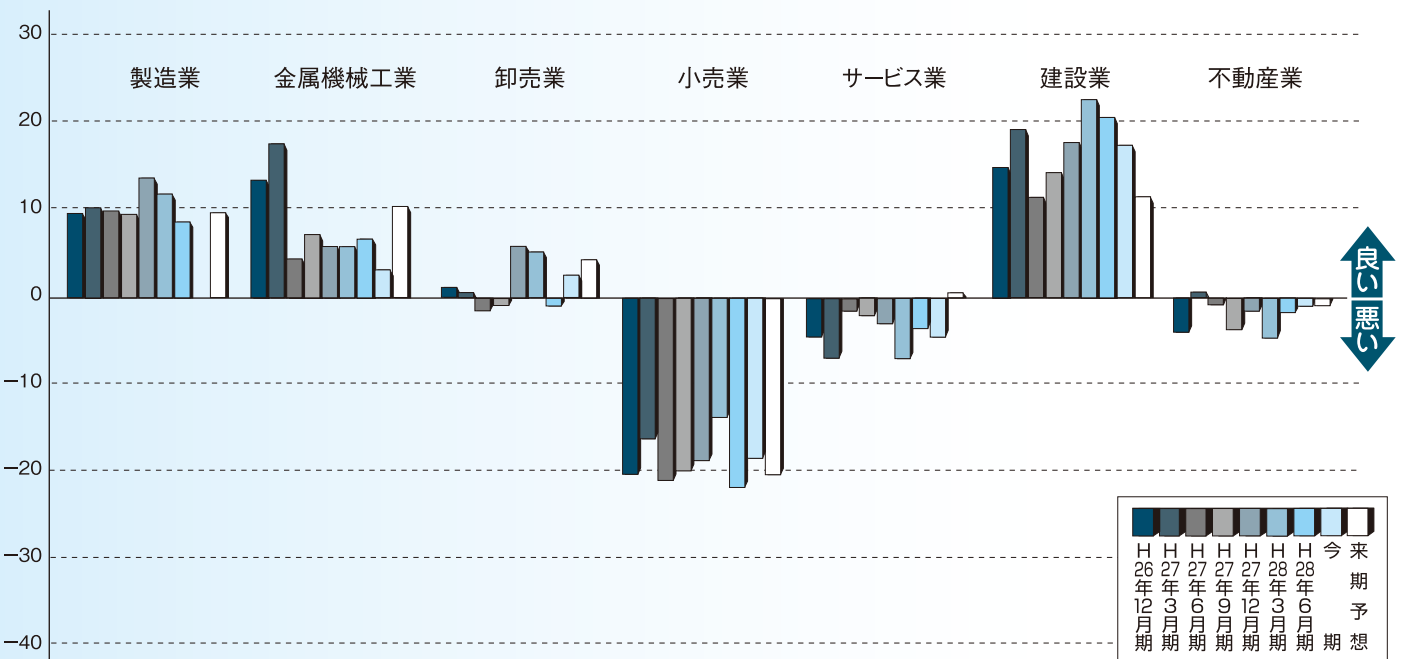
全体業況判断DI



地区別業況判断DI



業種別業況判断DI





## 業況について

### ～2016年7月～9月期、全業種総合の業況はほぼ横ばい(=5四半期連続)～

2016年7月～9月期、全業種の業況判断DIは(前期2.4→)0.5(前期比1.9ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移となった。  
来期予想は、業況判断DIは3.0となり、引き続きほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

### ～業種別は「製造業」で悪化(=予想を上回る)～

業種別にみると、「建設業」17.5(前期比3.0ポイント減)、「金属機械工業」3.0(前期比3.5ポイント減)、「卸売業」2.5(前期比3.3ポイント増)、「製造業」0.0(前期比8.5ポイント減)、「不動産業」▲0.8(前期比0.8ポイント増)、「サービス業」▲4.5(前期比1.0ポイント減)、「小売業」▲18.0(前期比4.0ポイント増)となった。小幅に改善が見られたのは小売業、卸売業で一方、悪化したのは製造業また小幅に悪化したのは金属機械工業となった。その他は横ばい～ほぼ横ばいだった。

### ～淀川以南の業況感が悪化(=4四半期振り)、以北は横ばい～

地域別にみると、業況判断DIは淀川以北地域1.5(前期比0.5ポイント減)となり、横ばいの推移となった一方、淀川以南地域は▲2.6(前期比6.3ポイント減)で昨年9月期調査の5.1ポイント低下以来、4四半期振りの悪化でマイナスとなった。  
来期予想は、業況判断DIは淀川以北地域(3.3)が、ほぼ横ばいで推移する見通し、以南地域(2.2)は小幅に改善するとの見通しとなった。

## 売上額・収益の動き

### ～売上額はほぼ横ばい、収益は横ばいで推移～

全業種の売上額判断DIは(前期5.2→)2.6(前期比2.6ポイント減)となり、ほぼ横ばいでの推移となった。業種別で改善したのは「卸売業」7.5(前期比7.5ポイント増)、「小売業」▲8.7(前期比6.7ポイント増)となった。一方大幅に悪化は「製造業」3.0(前期比11.0ポイント減)また悪化は「不動産業」▲5.4(前期比9.2ポイント減)となった。

全業種の収益判断DIは(前期1.6→)0.7(前期比0.9ポイント減)となり、横ばいで推移となった。業種別で改善したのは「小売業」▲10.6(前期比8.1ポイント増)となった。一方で大幅に悪化したのは「製造業」▲1.0(前期比10.0ポイント減)だった。また悪化は「建設業」6.0(前期比5.5ポイント減)となった。

来期予想は、売上額判断DIは7.6となり、また収益判断DIは5.1となり、いずれも小幅に改善するとの見通しとなった。

## 販売価格・原材料・仕入価格の動き

### ～販売価格は横ばい、原材料・仕入価格はほぼ横ばいで推移～

全業種の販売価格判断DIは(前期0.6→)0.7(前期比0.1ポイント増)となり、横ばいで推移となった。業種別で小幅に改善が見られたのは「建設業」3.5(前期比4.0ポイント増)で一方、悪化したのは「小売業」▲2.0(前期比6.0ポイント減)だった。その他は横ばいでの推移となった。

原材料・仕入価格判断DIは(前期8.7→)6.3(前期比2.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移となった。

業種別で小幅に悪化が見られたのは「小売業」8.0(前期比4.6ポイント減)、「製造業」5.0(前期比4.0ポイント減)、「卸売業」▲3.3(前期比4.1ポイント減)だった。その他は横ばい～ほぼ横ばいで推移となった。

来期予想は、販売価格判断DIは1.3となり、また原材料・仕入価格判断DIは5.8となり、いずれも横ばいで推移する見通しとなった。

## 資金繰り・雇用面の動き

### ～資金繰り、人手不足感とも横ばいで推移～

全業種の資金繰り判断DIは(前期▲4.0→)▲3.1(前期比0.9ポイント増)となり、横ばいとなった。

人手判断DIは(前期▲12.2→)▲12.2(前期比増減なし)となり、横ばいで推移となった。

業種別で人手不足感が弱まったのは「卸売業」▲5.0(前期比3.4ポイント増)だった。一方小幅に強まったのは「建設業」▲23.0(前期比4.0ポイント減)となった。その他は横ばい～ほぼ横ばいでの推移となった。特に「建設業」、「サービス業」の不足感は慢性的に高い。

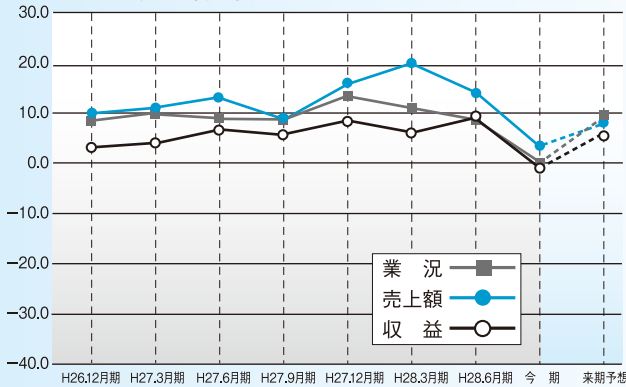
## 経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	同業者間の競争の激化 48.5%	売上の停滞・減少 34.0%	利幅の縮小 29.0%	人手不足 17.0%	原材料・料金価格高 12.5%
金属機械工業	同業者間の競争の激化 51.5%	売上の停滞・減少 35.0%	利幅の縮小 25.0%	人手不足 16.5%	工場・狭小、機械の老朽化 16.5%
卸売業	同業者間の競争の激化 57.5%	利幅の縮小 30.0%	売上の停滞・減少 27.5%	為替レートの変動 11.7%	取引先の減少 10.8%
小売業	売上の停滞・減少 47.3%	同業者間の競争の激化 46.0%	大型店との競争激化 41.3%	利幅の縮小 15.3%	商店街の集客力の低下 15.3%
サービス業	同業者間の競争の激化 58.5%	売上の停滞・減少 29.0%	人手不足 22.5%	利幅の縮小 20.0%	大企業との競争の激化 14.5%
建設業	同業者間の競争の激化 55.0%	人手不足 33.0%	利幅の縮小 26.0%	売上の停滞・減少 25.5%	下請けの確保難 21.0%
不動産業	商品物件の不足 59.2%	同業者間の競争の激化 54.6%	利幅の縮小 31.5%	商品物件の高騰 27.7%	売上の停滞・減少 22.3%

## 当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 71.5%	経費を節減 53.0%	情報力を強化 26.5%	新製品・技術を開発 25.5%	提携先を見つける 15.5%
金属機械工業	販路を広げる 57.0%	経費を節減 56.0%	情報力を強化 26.5%	人材確保 22.0%	教育訓練を強化 20.0%
卸売業	販路を広げる 77.5%	経費を節減 52.5%	情報力を強化 32.5%	品揃えを充実 23.3%	提携先を見つける 15.0%
小売業	経費を節減 65.3%	品揃えを充実 39.3%	宣伝・広告を強化 37.3%	売れ筋商品を取扱う 30.7%	商店街事業を活性化 16.7%
サービス業	経費を節減 51.0%	販路を広げる 46.5%	宣伝・広告を強化 32.5%	人材確保 25.5%	技術力を強化 16.0%
建設業	経費を節減 54.5%	販路を広げる 53.5%	人材確保 39.0%	技術力を強化 29.0%	情報力を強化 27.5%
不動産業	情報力を強化 78.3%	宣伝・広告を強化 47.5%	販路を広げる 46.7%	経費を節減 33.3%	不動産の有効活用 10.8%

業況・売上額・収益



製造業 DI値の推移

	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9	H27.12	H28.3	H28.6	今期	来期予想
業況	8.5	10.0	9.5	9.0	13.5	11.5	8.5	0.0	9.5
売上額	10.0	11.0	13.0	9.0	16.5	20.0	14.0	3.0	8.5
受注残	13.0	16.0	13.0	10.5	16.0	16.0	13.5	4.5	7.0
収益	3.5	4.0	7.0	6.0	8.5	7.0	9.0	-1.0	5.5
販売価格	1.0	2.0	2.5	1.5	-1.0	0.5	1.5	1.0	-0.5
原材料価格	30.0	24.5	26.0	16.0	12.0	12.0	9.0	5.0	5.0
在庫	2.0	4.5	1.0	1.0	0.5	-0.5	2.5	-0.5	-0.5
資金繰り	-7.0	-7.0	-2.0	-5.5	-0.5	-5.0	-3.0	1.0	4.5
従業員残業時間	12.5	6.5	5.0	6.0	9.0	7.5	7.0	4.5	8.0
従業員人手	-10.0	-5.5	-13.0	-12.5	-8.5	-14.5	-10.0	-10.5	-9.5
設備状況	-6.0	-9.5	-10.0	-8.0	-6.0	-10.5	-9.0	-7.0	-5.5

業況について

～2016年7月～9月期、業況は悪化、来期は改善見通し～

2016年7月～9月期、製造業の業況判断DIは(前期8.5→)0.0(前期比8.5ポイント減)となり、悪化となった。2年前の2014年6月期(5.5)前期比10.0ポイント低下して以来の下げ幅となった。ただ来期予想は改善で悪化は一過性との見方となった。最多納入先別で業況判断DIを見ると、大幅な悪化となったのは「大メーカー向け」15.4(前期比11.7ポイント減)、「中小メーカー向け」▲8.7(前期比10.6ポイント減)で特に大メーカー向けは前期に続き低下が進んだ。また「小売・最終需要家向け」も▲4.8(前期比9.8ポイント減)で悪化となった。来期予想は、業況判断DIは9.5となり、改善するとの見通しとなった。年末に向け消費の拡大や災害復旧需要などの動向が注目される。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	24	52	103	21
良い～悪い	0	2	8	-9	-1
DI	0	8.3	15.4	-8.7	-4.8

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益とも大幅に悪化、受注は悪化～

売上額判断DIは(前期14.0→)3.0(前期比11.0ポイント減)となり、大幅に悪化した。収益判断DIも(前期9.0→)▲1.0(前期比10.0ポイント減)となり、大幅に悪化となった。また受注残判断DIも(前期13.5→)4.5(前期比9.0ポイント減)となり、悪化となった。来期予想は、売上額判断DIは8.5となり、今期比5.5ポイント増、また収益判断DIは5.5となり、同6.5ポイント増でいずれも改善の見通しとなった。受注残判断DIは7.0となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は横ばい、原材料価格は小幅に改善～

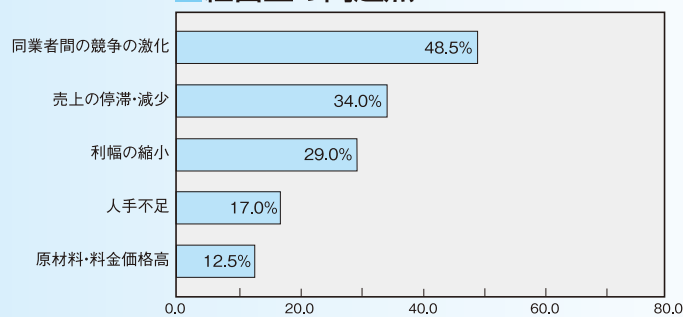
販売価格判断DIは(前期1.5→)1.0(前期比0.5ポイント減)となり、横ばいでの推移となった。原材料価格判断DIは(前期9.0→)5.0(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に改善が見られた。来期予想は、販売価格判断DIは▲0.5となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。また原材料価格判断DIは5.0となり、横ばいの見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

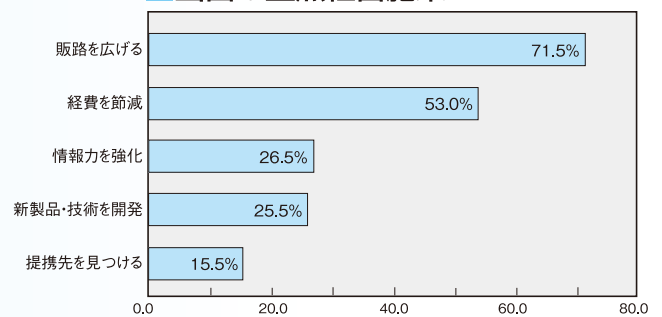
～資金繰りは小幅に改善(=三四半期振り)、人手不足感は横ばい～

資金繰り判断DIは(前期▲3.0→)1.0(前期比4.0ポイント増)となり、三四半期振りに小幅に改善となった。人手判断DIは(前期▲10.0→)▲10.5(前期比0.5ポイント減)となり、横ばいで推移した。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業は(前期2.5%→)2.0%、適正とした企業は(前期85.0%→)85.5%、不足とした企業は(前期12.5%→)12.5%。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

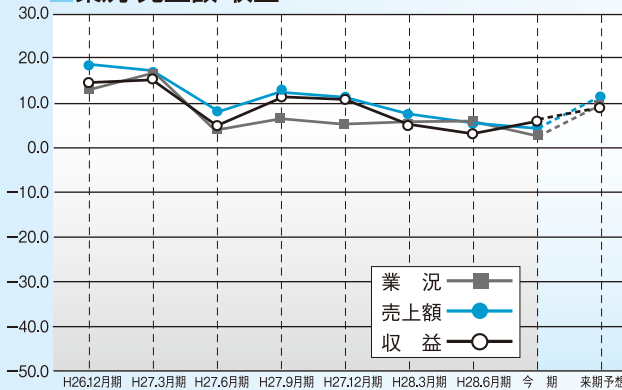


企業のコメント



- ・業況は良い方にあり、売上、受注は前期に比べ増加傾向となったが収益増までには至っていない。(機械部品製造業)
- ・小ロット対応での差別化と高品質との評価を得ており売上、受注、収益ともやや増加となった。(ステンレス製品製造業)
- ・機械の老朽化もあり効率化が遅れており売上や収益確保にマイナス影響となった。(製袋業)
- ・国内向け製品を扱っているが取引先からは厳しい価格交渉もあり売上、受注、収益が減少となった。(プラスチック製品製造業)
- ・安価な輸入商品との競争から売上、収益は減少となった。(衣服、その他の繊維製品製造業)
- ・業況はやや悪い、売上は前期比マイナスになった。また受注も減って資金繰りにも影響している。(電子部品製造業)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9	H27.12	H28.3	H28.6	今期	来期予想
業況	13.0	17.5	4.0	7.0	5.5	5.5	6.5	3.0	10.0
売上額	18.5	17.5	8.0	13.5	11.5	7.0	6.0	4.5	12.5
受注残	16.0	20.5	8.0	17.5	12.0	8.5	7.0	8.5	14.5
収益	15.0	15.5	5.0	11.5	11.0	5.0	3.0	5.5	9.0
販売価格	-0.5	2.0	0.5	1.5	-1.5	-1.5	-1.0	-0.5	1.5
原材料価格	19.0	22.5	21.5	12.0	7.5	5.5	3.5	4.0	3.0
在庫	0.0	3.5	0.5	-1.5	2.0	1.0	0.5	0.0	0.5
資金繰り	-0.5	-4.0	2.5	-2.0	0.0	1.0	0.5	3.0	3.5
従業員残業時間	9.0	21.0	9.5	15.0	12.5	10.5	7.0	9.0	8.5
従業員人手	-18.0	-20.5	-17.5	-20.5	-15.0	-13.5	-13.5	-14.5	-14.0
設備状況	-11.5	-14.5	-8.5	-10.5	-7.0	-9.5	-8.0	-8.5	-7.5

業況について

～2016年7月～9月期、業況は小幅に悪化、来期は改善の見通し～

2016年7月～9月期、金属機械工業の業況判断DIは(前期6.5→)3.0(前期比3.5ポイント減)となり、小幅に悪化となった。最多納入先別業況判断DIを見ると、かなり大幅に悪化が見られたのは「小売・最終需要向け」0.0(前期比28.6ポイント減)だった。また悪化は「大メーカー向け」0.0(前期比9.0ポイント減)、「問屋・商社向け」▲6.3(前期比6.3ポイント減)となった。

来期予想は、業況判断DIは10.0となり、今期比7.0ポイント増で改善するとの見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要系
全体	200	16	66	112	6
良い～悪い	6	-1	0	7	0
DI	3.0	-6.3	0.0	6.3	0.0

売上額・収益・受注の動き

～売上額、収益、受注残いずれもほぼ横ばい～

売上額判断DIは(前期6.0→)4.5(前期比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいでの推移となった。また収益判断DIは(前期3.0→)5.5(前期比2.5ポイント増)となり、受注残判断DIは(前期7.0→)8.5(前期比1.5ポイント増)となり、いずれもほぼ横ばいとなった。

来期予想は、売上額判断DIは12.5で今期比8.0ポイント増、受注判断DIは14.5で同6.0ポイント増となり、いずれも改善するとの見通しとなった。また収益判断DIは9.0で今期比3.5ポイント増となり、小幅に改善の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格、原材料価格とも横ばい～

販売価格判断DIは(前期▲1.0→)▲0.5(前期比0.5増)となり、横ばいとなった。原材料価格判断DIは(前期3.5→)4.0(前期比0.5ポイント増)となり、横ばいでの推移となった。

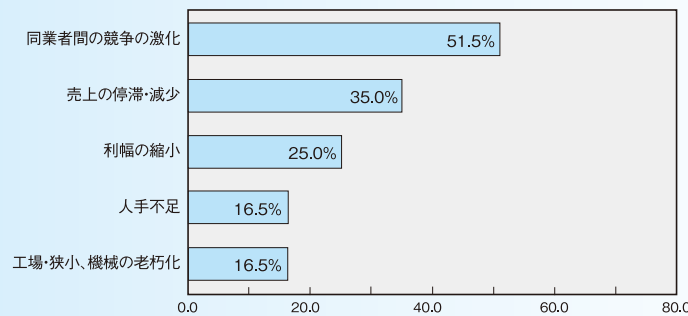
来期予想は、販売価格判断DIは1.5、原材料価格判断DIは3.0となり、いずれも横ばいの見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

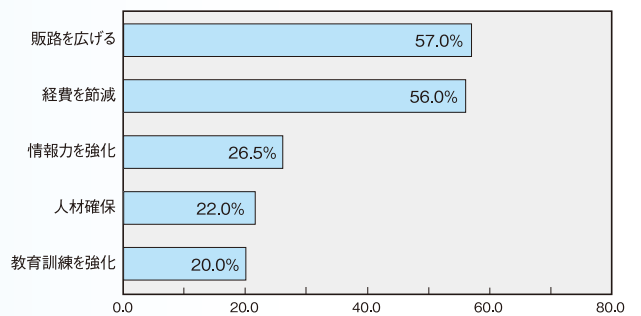
～資金繰りはほぼ横ばい、人手不足感は横ばい～

資金繰り判断DIは(前期0.5→)3.0(前期比2.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。人手判断DIは(前期▲13.5→)▲14.5(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいとなった。人手判断DIの内訳は、人手過剰とした企業は(前期1.5%→)1.0%、適正とした企業は(前期83.5%→)83.5%、不足とした企業は(前期15.0%→)15.5%となった。

経営上の問題点



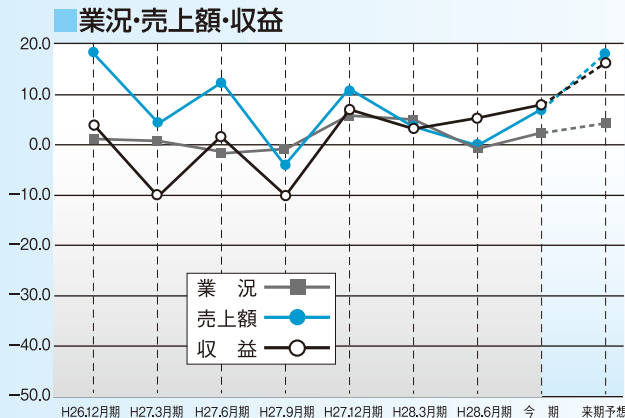
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・パイオ関連を中心に売上、受注、収益とも増加となった。設備投資もしたが、まだ取引先の応需には追いつかない状況にある。(金属製品製造業)
- ・売上、受注、収益いずれも僅かながら増加で来期も増加が見込まれる。(建設・建築用金属製品製造業)
- ・売上は増加したがフル操業で残業時間も増加、外注も増え、利益は横ばいとなった。(製缶板金業)
- ・将来を見据えて、生産性向上に向け設備の効率化や業務改善を考えている。(精密機械器具製造業)
- ・短納期、小ロットの注文が増えており、取引先の生産調整が見受けられる。(非鉄金属製造・加工業)
- ・主力取引先である大手メーカーからの受注が半分以下となって売上、収益とも減少した。(精密機械部品製造業)



### 卸売業 DI値の推移

	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9	H27.12	H28.3	H28.6	今期	来期予想
業況	1.6	0.8	-1.6	-0.8	5.8	5.0	-0.8	2.5	4.1
売上額	18.3	4.2	12.5	-4.2	10.8	3.4	0.0	7.5	18.3
収益	4.1	-10.0	1.7	-10.0	6.7	3.4	5.8	8.4	17.5
販売価格	14.2	5.9	10.0	0.0	5.8	4.1	2.5	3.3	5.0
仕入価格	26.6	22.5	23.3	18.4	15.8	6.7	0.8	-3.3	0.9
在庫	5.0	4.1	3.3	2.5	0.0	0.0	0.9	4.1	0.8
資金繰り	-1.7	-7.5	0.0	-5.0	-5.0	-6.6	-6.7	-5.0	-1.7
従業員残業時間	0.8	1.6	2.5	5.0	0.8	2.5	3.4	2.5	2.5
従業員人手	-7.5	-5.0	-1.7	-4.2	-2.5	-5.8	-8.4	-5.0	-7.5
設備状況	-2.5	-2.5	0.0	0.0	0.8	0.0	-0.9	0.0	-0.9

### 業況について

～2016年7月～9月期、業況は小幅に改善、来期は横ばい～

2016年7月～9月期、卸売業の業況判断DIは(前期▲0.8→)2.5(前期比3.3ポイント増)となり小幅に改善となった。最多納入先別に業況判断DIをみると、かなり大幅に改善したのは「大メーカー向け」40.0(前期比16.5ポイント増)、また大幅に改善は「問屋・商社向け」0.0(前期比12.5ポイント増)だった。一方悪化したのは「小売業者向け」▲11.1(前期比8.5ポイント減)となった。「大メーカー向け」は2012年9月期調査(6.3)でプラスに転じて以来最も高くなった。来期予想は、業況判断DIは4.1となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	120	23	15	46	36
良い～悪い	3	0	6	1	-4
DI	2.5	0.0	40.0	2.2	-11.1

### 売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益はほぼ横ばい、来期の売上額は引き続き改善・収益も改善見通し～

売上額判断DIは(前期0.0→)7.5(前期比7.5ポイント増)となり、改善となった。収益判断DIは(前期5.8→)8.4(前期比2.6ポイント増)となり、ほぼ横ばいでの推移となった。来期予想は、売上額判断DIは18.3で今期比10.8ポイント増となり、大幅に改善するとの見通しとなった。また収益判断DIも17.5となり、今期比9.1ポイント増となり、改善するとの見通しとなった。

### 販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい、仕入価格は小幅に改善～

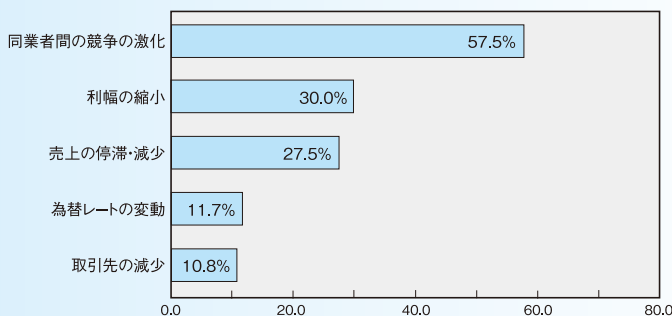
販売価格判断DIは(前期2.5→)3.3(前期比0.8ポイント増)となり、横ばいでの推移となった。仕入価格判断DIは(前期0.8→)▲3.3(前期比4.1ポイント減)で小幅ながら3四半期連続して改善となった。仕入価格は上昇と答えた企業の割合は5.0%で昨年9月期の24.2%から大幅に減少している一方で、下降と答えた企業の割合は8.3%(昨年9月期5.8%)。来期予想は、販売価格DIは5.0となり、ほぼ横ばいでの推移の見通し。また仕入価格判断DIは0.9となり、今期比4.2ポイント増で小幅に悪化の見通しとなった。

### 在庫・資金繰り・雇用面の動き

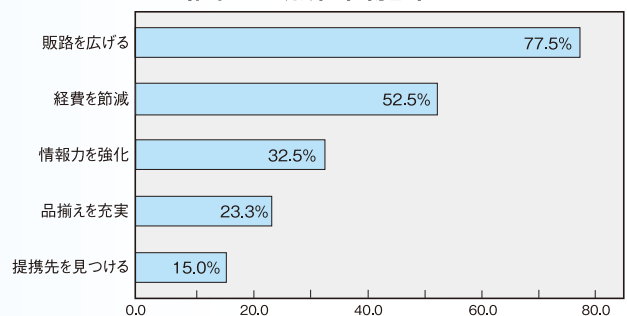
～在庫は小幅に改善、資金繰りはほぼ横ばい、人手不足は小幅に弱まる～

在庫判断DIは(前期0.9→)4.1(前期比3.2ポイント増)となり、小幅に改善となった。資金繰り判断DIは、(前期▲6.7→)▲5.0(前期比1.7ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。人手判断DIは(前期▲8.4→)▲5.0(前期比3.4ポイント増)となり、小幅に弱まった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業は(前期0.8%→)0.8%、適正とした企業は(前期90.0%→)93.4%、不足とした企業は(前期9.2%→)5.8%となった。

### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策



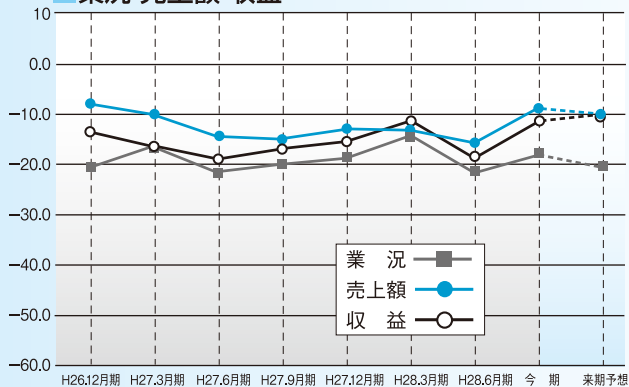
### 企業のコメント



- ・大手メーカーへの売上が増加し、前年並みの利益を確保できている。(工業用樹脂製品卸売業)
- ・取引先の海外のプラントが好調で関連商品が売上増加に貢献した。(機械器具卸売業)
- ・物流の改善が今後の収益に貢献すると期待している。(その他卸売業)
- ・円高効果で仕入コストは減少したものの人件費の増加が効果を打ち消している。(その他卸売業)
- ・BtoBからBtoCへ業態の転換を推し進めていく。(農畜産物・水産物卸売業)
- ・同業者間の競争激化は売上や収益確保を厳しくし、業況はやや悪くなっている。(建築金物卸売業)



業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	H27.9月期	H27.12月期	H28.3月期	H28.6月期	今 期	来期予想
業 況	-20.7	-16.7	-21.3	-20.0	-18.7	-14.0	-22.0	-18.0	-20.7
売上 額	-8.0	-10.0	-14.0	-14.6	-12.7	-13.4	-15.4	-8.7	-10.0
収 益	-13.3	-16.6	-18.7	-17.3	-15.3	-12.0	-18.7	-10.6	-10.0
販売価格	2.7	0.7	0.0	-4.0	-1.4	3.3	4.0	-2.0	-2.0
仕入価格	14.0	16.0	18.0	14.7	11.3	9.3	12.6	8.0	7.4
在 庫	-1.3	-1.3	-0.7	-0.6	3.3	2.7	2.7	2.0	2.7
資金繰り	-14.0	-15.4	-16.0	-19.3	-17.3	-13.3	-11.3	-14.0	-12.7
従業員残業時間	0.0	0.0	2.7	2.0	0.6	2.0	0.7	2.0	2.7
従業員人手	-5.3	-8.0	-6.0	-6.0	-4.0	-8.0	-6.7	-5.3	-5.4
設備状況	-2.7	-4.7	-5.3	-4.6	-4.6	-3.4	-1.3	-2.6	-3.3

業況について

～2016年7月～9月期、業況は小幅に改善、来期もほぼ横ばいで推移見通し～

2016年7月～9月期、小売業の業況判断DIは(前期▲22.0)▲18.0(前期比4.0ポイント増)となり、小幅に改善となった。小売業で「良い」とした企業の割合は10.7%(前期10.0%)、「適正」は60.6%(前期58.0%)、「悪い」は28.7%(前期32.0%)。店舗立地地域別に業況判断DIをみると、「駅周辺商店街」▲25.5(前期比0.9ポイント減)となり、横ばいで推移したが、「住宅地隣接商店街」▲27.0(前期比5.4ポイント増)、その他の地域▲5.2(前期比8.4ポイント増)となり、いずれも改善が見られた。ただ「駅周辺商店街」や「住宅地隣接商店街」の業況は恒常的に厳しい。

来期予想は、業況判断DIは▲20.7となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合 計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	そ の 他
全 体	150	55	37	58
良い～悪い	-27	-14	-10	-3
D I	-18.0	-25.5	-27.0	-5.2

売上額・収益の動き

～売上額は改善(=7四半期振り)、収益も改善～

売上額判断DIは(前期▲15.4→)▲8.7(前期比6.7ポイント増)となり、7四半期振りに改善した。収益判断DIも(前期▲18.7→)▲10.6(前期比8.1ポイント増)となり、改善となった。

来期予想は、売上額判断DIは▲10.0となり、今期比1.3ポイント減でほぼ横ばいの 見通しとなった。収益判断DIは▲10.0となり、今期比0.6ポイント増で横ばいの見通しとなった。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は小幅に改善、来期はいずれも横ばいの見通し～

販売価格判断DIは(前期4.0→)▲2.0(6.0ポイント減)となり、悪化となった。仕入価格判断DIは(前期12.6)8.0(4.6ポイント減)となり、小幅に改善となった。

来期予想は、販売価格判断DIは▲2.0、仕入価格判断DIは7.4となり、いずれも横ばいで推移する見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

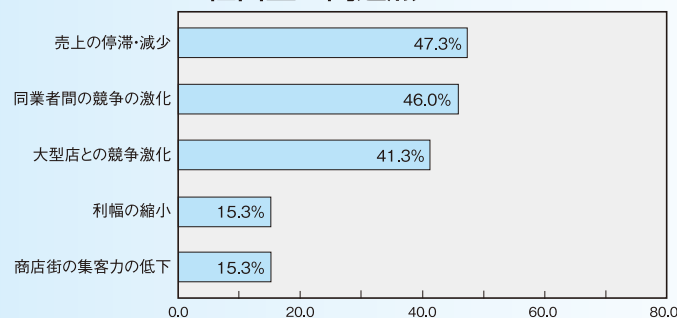
～資金繰り、人手不足感ともにほぼ横ばい～

資金繰り判断DIは(前期▲11.3→)▲14.0(前期比2.7ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。

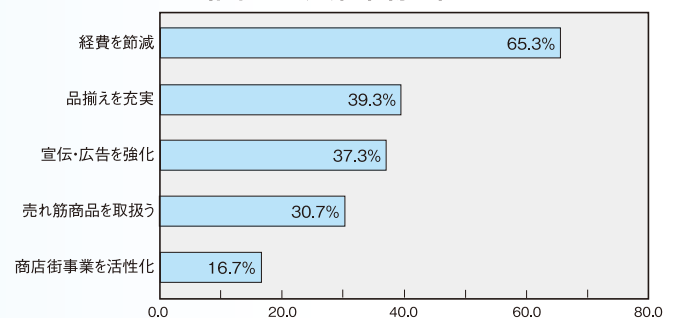
人手判断DIは(前期▲6.7→)▲5.3(前期比1.4ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。

来期予想は、資金繰り判断DIは▲12.7となり、ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。また人手判断DIは▲5.4となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業は(前期2.0%→)2.7%、適正とした企業は(前期89.3→)89.3%、不足とした企業は(前期8.7→)8.0%だった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

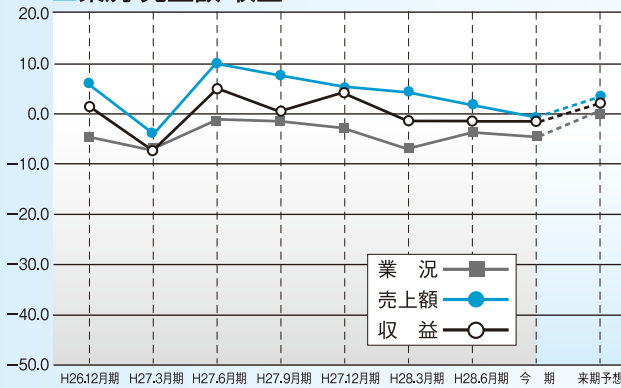


企業のコメント



- ・ 飲料水を中心に売上を伸ばし、収益は前期比増加となった。(コンビニエンスストア)
- ・ 衣料品のネット販売が好調に推移し、売上、収益はやや増加をした。(衣料品小売業)
- ・ 大型集合住宅のエアコン入替など受注が好調だったことから売上、収益は伸びた。(家庭用機械・電気機械器具小売業)
- ・ 円高による仕入れコストの低下は収益確保に大きく貢献した。(燃料小売業)
- ・ 台風など天候不良の影響で農産物の仕入価格は上昇し利幅は縮小となった。(食料品小売業)
- ・ 価格競争で販売価格の引き下げが収益を減らした一方、売上は伸びず在庫は過剰気味となった。(自転車小売業)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	H27.9月期	H27.12月期	H28.3月期	H28.6月期	今期	来期予想
業況	-4.0	-7.0	-1.5	-2.0	-3.0	-7.0	-3.5	-4.5	0.5
売上額	5.5	-4.0	10.0	7.5	5.0	4.5	2.0	-0.5	3.5
収益	1.0	-7.5	5.0	0.0	4.5	-1.0	-1.0	-1.0	2.5
料金価格	4.0	1.0	5.0	6.5	1.5	1.0	-1.5	-1.0	0.5
材料価格	18.0	7.5	14.0	12.0	8.5	0.5	5.0	4.0	2.0
資金繰り	-8.5	-10.0	-5.0	-9.5	-10.0	-7.0	-7.0	-6.0	-4.5
従業員残業時間	10.5	6.5	6.0	8.5	11.5	4.5	6.5	7.5	6.5
従業員人手	-18.5	-19.0	-22.5	-22.0	-19.5	-23.5	-18.5	-16.0	-16.5
設備状況	-7.0	-10.5	-9.0	-10.0	-7.5	-12.0	-9.5	-9.5	-7.5

業況について

～2016年7月～9月期、業況は横ばい、来期は小幅に改善の見通し～

2016年7月～9月期、サービス業の業況判断DIは(前期▲3.5→)▲4.5(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいとなった。来期予想は、業況判断DIは0.5となり、今期比5.0ポイント増で小幅に改善するとの見通しとなった。

売上額・収益の動き

～売上額はほぼ横ばい、収益は横ばい、来期はいずれも小幅に改善の見通し～

売上額判断DIは(前期2.0→)▲0.5(前期比2.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移となった。収益判断DIは(前期▲1.0→)▲1.0(前期比増減なし)となり、横ばいとなった。来期予想は、売上額判断DIは3.5となり、今期比4.0ポイント増で小幅に改善するとの見通しとなった。収益判断DIは2.5となり、今期比3.5ポイント増で売上額判断DI同様に小幅に改善の見通しをした。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格、材料価格ともに横ばい～

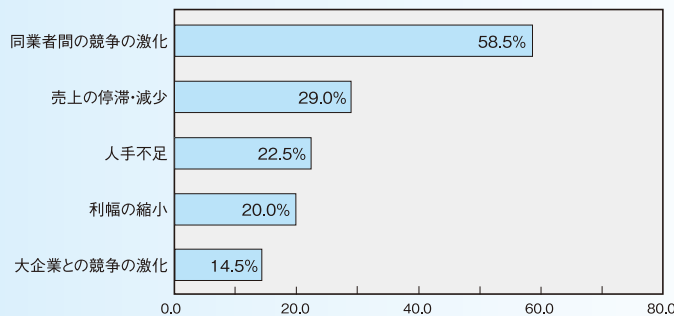
料金価格判断DIは(前期▲1.5→)▲1.0(前期比0.5ポイント増)となり、横ばいで推移となった。材料価格判断DIは(前期5.0→)4.0(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいとなった。来期予想は、料金価格判断DIは0.5、材料価格判断DIは2.0となり、横ばい～ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。

資金繰り・雇用面の動き

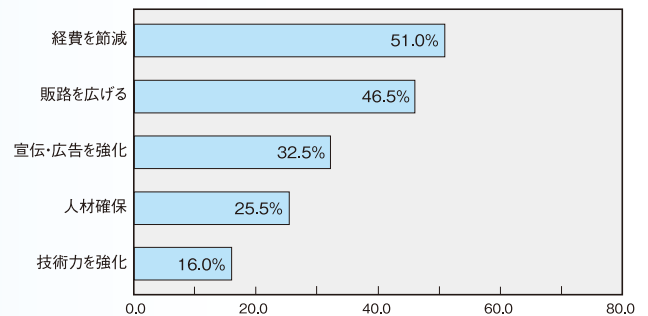
～資金繰りは横ばい、人手不足感はほぼ横ばい～

資金繰り判断DIは(前期▲7.0→)▲6.0(前期比1.0ポイント増)となり、横ばいとなった。人手判断DIは(前期▲18.5→)▲16.0(前期比2.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業は(前期0.5%→)2.0%、適正とした企業は(前期80.5%→)80.0%、人手不足とした企業は(前期19.0%→)18.0%となった。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

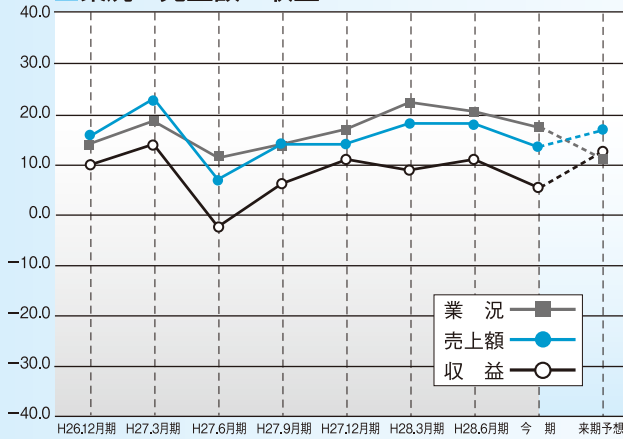


企業のコメント



- ・介護サービスは好調で人員も増やし売上、収益は増加となった。(介護業)
- ・運送する食品などの取扱量は多くなっており売上、収益はやや増加となった。(食品運送業)
- ・稼働率は良好で満室になることが多かった。来期も業況はやや良いと見ている。(ビジネスホテル業)
- ・業況はやや悪かった。設備の更改とサービスの向上で差別化を図っていく。(娯楽業)
- ・同業者間の価格競争から料金価格の引き下げとなった。冬物の扱い量も少なかった。(クリーニング業)
- ・低価格のチェーン展開店や従来からの競争店も多く、新たなお客数が伸びていない。(理・美容業)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	H26.12	H27.3	H27.6	H27.9	H27.12	H28.3	H28.6	今期	来期予想
業況	14.5	19.0	11.5	14.0	17.5	22.5	20.5	17.5	11.5
売上額	15.5	23.0	7.0	14.5	14.0	18.0	18.0	14.0	17.5
受注残	19.5	25.5	11.0	19.0	18.0	17.5	18.5	14.5	17.5
施工高	16.5	15.5	8.5	14.0	17.0	17.0	17.0	13.0	17.0
収益	10.0	14.5	-2.5	6.5	11.5	9.5	11.5	6.0	13.0
請負価格	7.0	9.5	0.5	0.0	0.5	1.0	-0.5	3.5	3.0
原材料・仕入価格	32.5	28.5	26.0	16.0	12.0	7.5	11.0	8.5	6.0
在庫	-1.0	0.5	-0.5	0.5	-1.0	-1.0	-0.5	-0.5	-1.0
資金繰り	-7.0	-10.5	0.0	-4.5	-3.0	-0.5	1.5	-0.5	-2.0
従業員残業時間	9.0	10.5	4.0	5.5	10.0	11.5	6.5	9.0	6.5
従業員人手	-23.5	-26.5	-20.5	-21.0	-25.0	-23.5	-19.0	-23.0	-22.5
設備状況	-6.0	-6.0	-3.5	-2.5	-4.0	-3.5	-5.0	-6.5	-6.0

業況について

～2016年7月～9月期、業況はほぼ横ばい、来期は悪化の見通し～

2016年7月～9月期、建設業の業況判断DIは(前期20.5→)17.5(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいでの推移となった。最多請負先別の業況判断DIは、大幅に悪化が見られたのは「官公庁向け」(22.9)前期比11.4ポイントの減、また小幅に悪化は「大企業向け」(27.6)前期比4.5ポイント減だった。「中小企業向け」や「個人向け」は横ばいとなった。来期予想は、業況判断DIは11.5となり、今期比6.0ポイント減で悪化すると見通しとなった。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	35	58	90	17
良い～悪い	35	8	16	11	0
DI	17.5	22.9	27.6	12.2	0.0

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、受注ともに小幅に悪化、収益は悪化、来期の収益は改善の見通し～

売上額判断DIは(前期18.0→)14.0(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に悪化となった。収益判断DIは(前期11.5→)6.0(前期比5.5ポイント減)となり、悪化となった。受注残判断DIは(前期18.5→)14.5(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に悪化となった。来期予想は、売上額判断DIは17.5となり、今期比3.5ポイント増で小幅に改善すると見通しとなった。また収益判断DIも13.0で今期比7.0ポイント増の改善見通しとなった。受注残判断DIは17.5となり、ほぼ横ばいで推移すると見通しとなった。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は小幅に改善、原材料はほぼ横ばい～

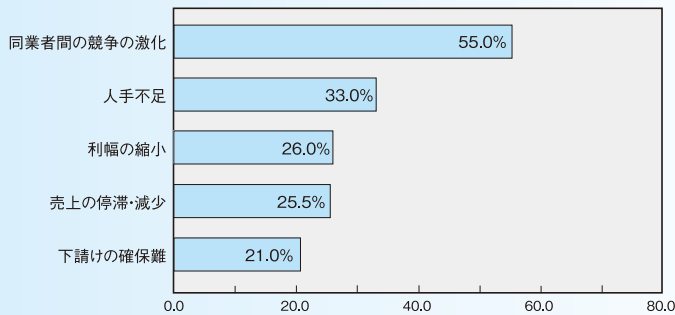
請負価格判断DIは(前期▲0.5→)3.5(前期比4.0ポイント増)となり、小幅に改善となった。原材料価格判断DIは(前期11.0→)8.5(前期比2.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいでの推移となった。原材料価格判断DIは2014年9月期調査(33.0)から2年間でかなり改善している。来期予想は、請負価格判断DIは3.0となり、横ばいの見通しとなった。原材料価格は6.0となり、ほぼ横ばいの見通しをした。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

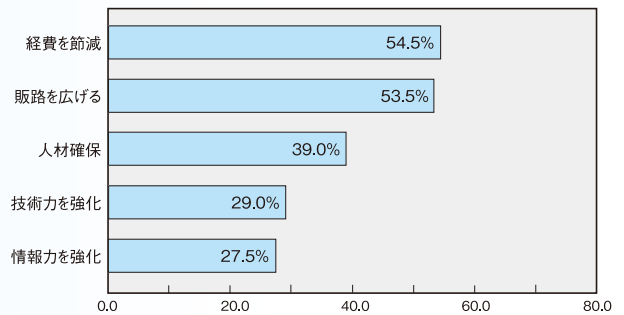
～在庫、資金繰りは横ばい、人手不足感はわずか強まる～

在庫判断DIは(前期▲0.5→)▲0.5(前期比増減なし)となり、横ばいで推移となった。資金繰り判断DIは(前期1.5→)▲0.5(前期比2.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいだった。人手判断DIは(前期▲19.0→)▲23.0(前期比4.0ポイント減)となり、わずかに強まった。建設業の人手不足感は慢性的に高い。来期予想は、在庫判断DIは▲1.0、人手判断DIは▲22.5で、いずれも横ばいで推移すると見通しとなった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期1.5%→)0.5%、適正とした企業が(前期78.0%→)76.0%、人手不足とした企業が(前期20.5%→)23.5%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

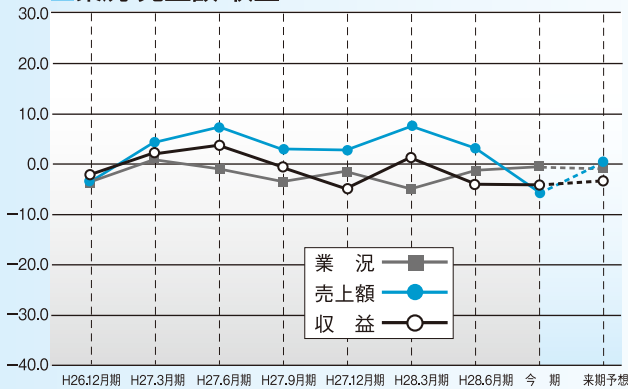


企業のコメント



- ・ 老朽化したインフラの改修工事は増えており、売上、受注、施工高とも増加となった。(乾式止水工事業)
- ・ 住宅リフォームの受注は好調で売上は増加となった。(リフォーム工事業)
- ・ 新築工事受注は増加傾向にあり、またリフォーム工事でも昨年並みを確保で業況は良い。(建築業)
- ・ 公共工事の受注獲得で売上は増加となったが、利益は横ばいだった。(総合工事業)
- ・ 太陽光発電システムでの売電価格(買取価格)も低下が見られる。太陽光パネル設置受注もやや減少となった。(設備工事業)
- ・ 大型施設の受注がやや減少となり、売上を下げた。昨年と比較しても減少となっている。(内装工事業)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	H27.9月期	H27.12月期	H28.3月期	H28.6月期	今期	来期予想
業況	-3.8	0.7	-0.8	-3.8	-1.6	-4.7	-1.6	-0.8	-0.7
売上額	-3.8	4.6	7.6	3.1	3.0	7.6	3.8	-5.4	0.8
収益	-2.3	1.6	4.6	-0.8	-4.7	1.5	-3.8	-3.9	-3.1
販売価格	-2.3	-1.6	6.2	-2.3	0.0	4.7	0.8	0.8	3.1
仕入価格	24.6	21.6	28.5	20.0	14.6	23.1	20.8	18.4	19.2
在庫	-20.7	-15.3	-16.2	-20.0	-20.0	-16.2	-16.9	-24.7	-24.6
資金繰り	0.0	3.1	4.6	1.5	3.1	-3.8	-5.4	-3.9	-2.3
従業員残業時間	-1.5	-3.0	-1.6	-2.3	-3.1	0.0	-2.3	-2.3	-2.3
従業員人手	-3.8	-0.7	-3.8	-3.8	-1.5	-1.5	-3.1	-3.1	-3.8

業況について

～2016年7月～9月期、業況は横ばい、来期も横ばいの見通し～

2016年7月～9月期、不動産業の業況判断DIは(前期▲1.6→)▲0.8(前期比0.8ポイント増)となり、横ばいで推移となった。業況判断DIは昨年3月期に0.7とそれまでのマイナスからプラスに転じたものの、それ以降はマイナスが続いている。不動産業の内容別に業況判断DIをみると、改善が見られたのは「建売」(4.3)前期比7.1ポイント増となった。一方悪化したのは「賃貸」(0.0)前期比5.9ポイント減となり、2期連続の悪化。「仲介管理」(▲9.8)前期比7.4ポイント減となり、前期の改善から一転悪化となった。来期予想は、業況判断DIが▲0.7となり、横ばいで推移する見通しとなった。

◎業種内容別業況について(当期)

	全体	賃貸	建売	仲介管理
全体	130	19	70	41
良い～悪い	-1	0	3	-4
DI	-0.8	0.0	4.3	-9.8

売上額・収益の動き

～売上額は悪化、収益は横ばい、来期の売上額は改善の見通し～

売上額判断DIは(前期3.8→)▲5.4(前期比9.2ポイント減)となり、悪化となった。収益判断DIは(前期▲3.8)▲3.9(前期比0.1ポイント減)となり、横ばいで推移した。来期予想は、売上額判断DIが0.8となり、今期比6.2ポイント増で改善するとの見通しとなった。収益判断DIは▲3.1となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい、仕入価格はほぼ横ばい、来期の改善は見込まれず～

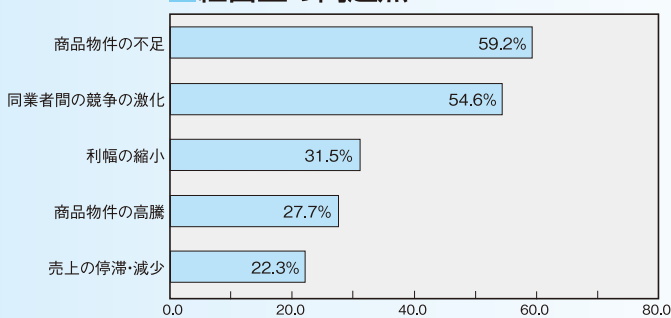
販売価格判断DIは(前期0.8→)0.8(前期比増減なし)となり、横ばいで推移した。仕入価格判断DIは(前期20.8→)18.4(前期比2.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいだった。来期予想は、販売価格判断DIは3.1となり、今期比2.3ポイント増でほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。仕入価格判断DIは19.2となり、横ばいの見通しをした。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

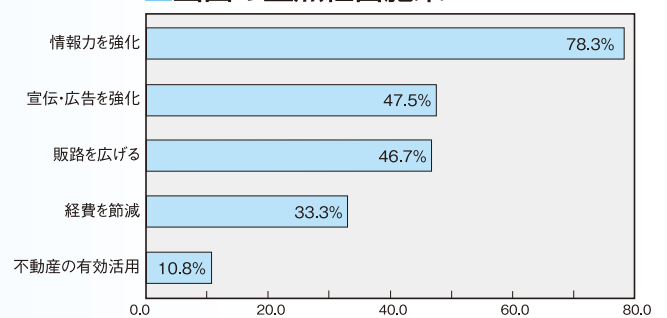
～在庫は悪化、資金繰りはほぼ横ばい、人手不足感は横ばい～

在庫判断DIは(前期▲16.9→)▲24.7(前期比7.8ポイント減)となり、悪化となった。資金繰り判断DIは(前期▲5.4→)▲3.9(前期比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移となった。従業員人手判断DIは(前期▲3.1→)▲3.1(前期比増減なし)で、横ばいだった。来期予想は、在庫判断DIは、▲24.6、従業員人手判断DIは▲3.8となり、いずれも横ばいで推移の見通しとなった。資金繰り判断DIは▲2.3となり、ほぼ横ばいで推移の見通しとなった。従業員人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.0%→)0.0%、適正とした企業が(前期96.9%→)96.9%、人手不足とした企業が(前期3.1%→)3.1%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・夏場の落込みはあったが売上は前期比やや増加できた。在庫はやや不足している。(建売業)
- ・建売住宅の販売価格、仕入価格ともやや上昇となったが、昨年同時期と比較して売上は伸びており業況は良い方だった。(建売業・土地売買業)
- ・取り扱う土地物件は減少している。(不動産仲介業)
- ・人気のある住宅地域の仕入価格(地価)は上昇がみられる。(不動産取引業)
- ・同業者間の競争は厳しく販売状況は悪化し業況は悪い。(建売業)
- ・複数の賃貸集合住宅がエリア内に出来て入居者の獲得競争となった。(不動産賃貸業)



北おおさかしんきん景気動向特別調査として、7月に施行された「中小企業等経営強化法」と、8月に閣議決定された28兆円の「経済対策」をテーマにアンケート調査を行った。

調査期間は平成28年9月1日～9月7日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答は1,198社（有効回答率99.8%）。

## 1. 経済対策（施策等）への企業の評価

### ～約5割の企業が「評価する」～

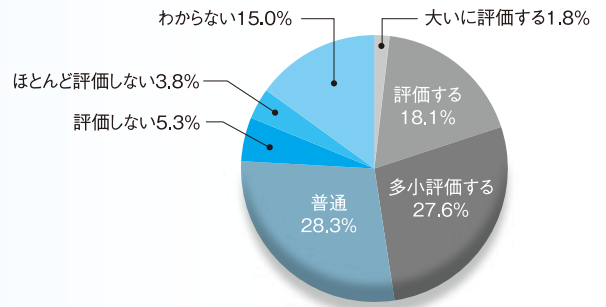
経済対策では5つの大きな柱として

- (1) 一億総活躍社会の実現の加速
- (2) 21世紀型のインフラ整備
- (3) 英国のEU離脱に伴う不安定性などのリスクへの対応並びに中小企業・小規模事業者および地方への支援
- (4) 熊本地震や東日本大震災からの復興や安全・安心・防災対応の強化
- (5) 成長と分配の好循環を強化するための構造改革

等がそれぞれ具体的に示された。経済対策（施策等）に対する企業の評価は、「評価する（大いに、多少評価するを含む）」が47.5%となり、半数近くの企業が何らかの評価をしていることがわかった。

「評価しない（ほとんど評価しないを含む）」は9.1%。

■ 経済対策（施策等）の評価／全業種計



■ 経済対策（施策等）への評価

割合	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
1.8%	大いに評価する	2.5%	3.0%	0.8%	0.7%	1.5%	2.5%	0.8%	
18.1%	評価する	19.5%	28.3%	18.0%	14.1%	17.5%	14.5%	11.6%	
27.6%	多小評価する	32.5%	30.8%	25.4%	16.8%	24.0%	33.5%	26.4%	
28.3%	普通	29.0%	22.7%	28.7%	32.9%	28.5%	27.0%	31.8%	
5.3%	評価しない	3.0%	3.5%	4.9%	10.1%	4.5%	5.0%	8.5%	
3.8%	ほとんど評価しない	3.5%	4.0%	4.1%	4.7%	2.5%	3.0%	5.4%	
15.0%	わからない	10.0%	7.6%	18.0%	20.8%	21.5%	14.5%	15.5%	

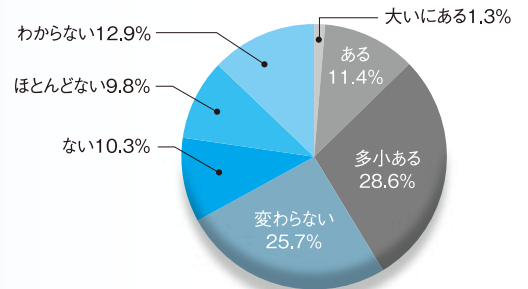
## 2. 経済対策の効果

### ～4割強の企業は「効果がある」～

経済対策が、自社の属する業界にどの程度効果があるか聞いたところ、「効果がある（大いに、多少あるを含む）」は41.3%となり、4割強の企業が効果を見込んでいた。

「効果はない（ほとんどないを含む）」は20.1%。

■ 経済対策の業界（自社が属する）への効果／全業種計



■ 自社が属する業界への効果

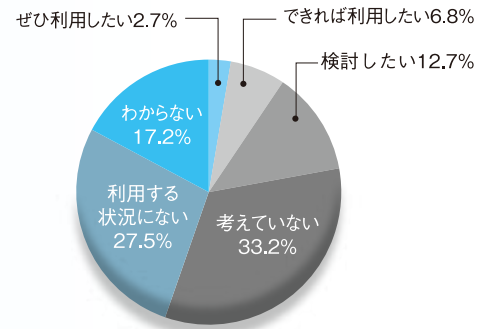
割合	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
1.3%	大いにある	0.5%	2.5%	0.0%	0.7%	0.5%	2.5%	2.3%	
11.4%	ある	16.0%	17.7%	8.2%	6.0%	9.5%	12.0%	5.4%	
28.6%	多小ある	35.0%	39.4%	32.0%	14.8%	23.5%	34.0%	14.7%	
25.7%	変わらない	24.0%	23.7%	24.6%	32.2%	24.5%	24.5%	28.7%	
10.3%	ない	5.0%	3.5%	5.7%	18.1%	14.0%	7.0%	23.3%	
9.8%	ほとんどない	9.0%	3.5%	14.8%	14.8%	9.5%	6.5%	16.3%	
12.9%	わからない	10.5%	9.6%	14.8%	13.4%	18.5%	13.5%	9.3%	

### 3. ものづくり補助金等の活用について

#### ～約1割の企業が今後見込まれる 「ものづくり補助金」等の利用を望む～

経済対策には「ものづくり・商業・サービス産業における支援」が盛り込まれており、今後ものづくり補助金等が実施された場合、利用するかを聞いたところ、「利用する」は9.5%。また「検討する」は12.7%だった。一方「考えていない」は33.2%、「利用する状況にない」が27.5%と6割強が利用に消極的だった。

#### ■ものづくり補助金の利用について



#### ■ものづくり補助金利用について

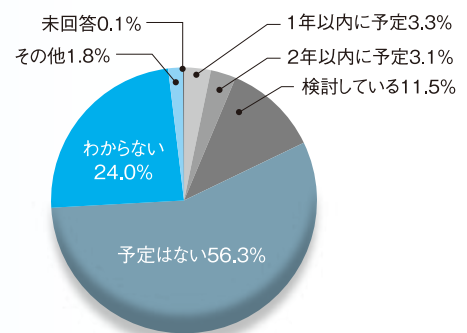
	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
2.7%	ぜひ利用したい	6.0%	8.1%	1.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	
6.8%	できれば利用したい	14.5%	14.6%	6.6%	1.3%	3.5%	3.0%	0.0%	
12.7%	検討したい	28.5%	22.7%	11.5%	4.7%	3.5%	10.0%	1.6%	
33.2%	考えていない	26.0%	28.8%	35.2%	40.9%	35.0%	36.5%	32.6%	
27.5%	利用する状況にない	12.0%	11.6%	27.9%	36.9%	33.5%	32.5%	47.3%	
17.2%	わからない	13.0%	14.1%	17.2%	16.1%	23.5%	18.0%	18.6%	

### 4. 中小企業等経営強化法に該当する設備の予定

#### ～2年以内に設備投資を予定する企業は6.4%～

中小企業等経営強化法では競争力向上のための設備投資について、「経営力向上計画」が認定された企業には固定資産税を3年間2分の1に軽減する予定。今後1～2年以内に対象となる設備投資の予定があるか聞いたところ、「1年以内」に予定している企業は3.3%、「2年以内」は3.1%とわずかだったが、今後「検討する」とした企業は11.5%あった。一方で「予定はない」が56.3%で半数を超え、「わからない」も24.0%あった。経営強化を後押しするとした同法が、今後企業の設備投資意欲を刺激できるか注目される。

#### ■今後1～2年の設備予定(新品の機械装置)



#### ■今後1～2年の企業の設備(機械装置=新品)予定

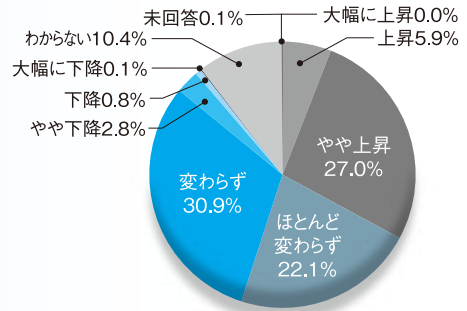
	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
3.3%	1年以内に予定	5.0%	7.1%	3.3%	0.7%	3.5%	1.5%	0.0%	
3.1%	2年以内に予定	6.5%	7.1%	1.6%	0.0%	2.0%	2.0%	0.0%	
11.5%	検討している	19.0%	23.2%	4.9%	4.0%	9.0%	11.0%	1.6%	
56.3%	予定はない	49.0%	40.9%	67.2%	65.8%	53.5%	59.0%	69.8%	
24.0%	わからない	19.0%	21.2%	20.5%	28.2%	28.0%	26.0%	24.8%	
1.8%	その他	1.5%	0.5%	2.5%	1.3%	3.5%	0.5%	3.9%	
0.1%	未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	

## 5. 今後1年間の原材料価格の動向(見通し)

### ～3割強の企業が「上昇」見込む～

今後1年間の原材料価格動向をどのように見通しているか聞いたところ、「上昇」が32.9%に対し、「下降」は3.7%と厳しい見方をしている企業が多いことがわかった。「変わらない」は53.0%。

■今後1年間の原材料価格の動向予想



■今後1年間の原材料価格の動向(見通し)

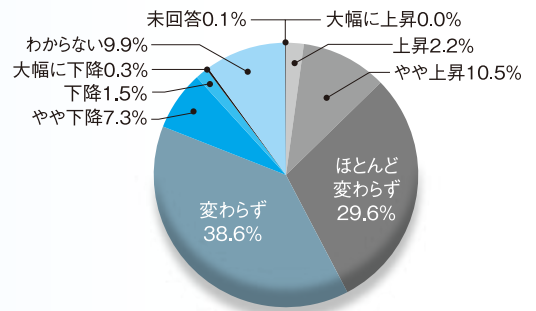
割合	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
0.0%	大幅に上昇	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.9%	上昇	5.5%	5.5%	4.0%	5.7%	6.7%	3.0%	7.0%	11.6%
27.0%	やや上昇	30.5%	30.5%	29.8%	28.7%	19.5%	17.0%	32.0%	31.8%
22.1%	ほとんど変わらず	31.0%	31.0%	24.2%	17.2%	24.8%	17.0%	22.5%	14.0%
30.9%	変わらず	21.5%	21.5%	30.8%	29.5%	34.2%	47.0%	25.5%	26.4%
2.8%	やや下降	3.0%	3.0%	2.5%	7.4%	2.7%	1.0%	2.0%	3.1%
0.8%	下降	1.0%	1.0%	0.0%	0.8%	1.3%	0.5%	0.5%	1.6%
0.1%	大幅に下降	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10.4%	わからない	7.5%	7.5%	8.1%	10.7%	10.7%	14.0%	10.5%	11.6%
0.1%	未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%

## 6. 今後1年間の販売価格(料金・請負)の見通し

### ～1割強の企業が「上昇」見込む～

今後1年間の販売価格(料金価格・請負価格)の動向をどのように見通しているか聞いたところ、「上昇」とみている企業が12.7%となったのに対し、「下降」は9.1%。「変わらない」は68.2%に上った。

■今後1年間の販売(料金・請負)価格動向予想



■今後1年間の販売価格(料金・請負)の動向(見通し)

割合	合計	回答	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
0.0%	大幅に上昇	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.2%	上昇	1.0%	1.0%	0.5%	3.3%	2.7%	2.0%	3.0%	3.9%
10.5%	やや上昇	10.5%	10.5%	6.6%	10.7%	10.1%	6.5%	12.5%	20.2%
29.6%	ほとんど変わらず	41.5%	41.5%	36.9%	30.3%	24.2%	21.5%	29.5%	18.6%
38.6%	変わらず	33.0%	33.0%	36.9%	38.5%	43.0%	47.5%	34.5%	38.0%
7.3%	やや下降	6.0%	6.0%	9.1%	7.4%	6.0%	8.0%	8.0%	5.4%
1.5%	下降	1.0%	1.0%	1.0%	0.0%	1.3%	1.5%	2.5%	3.1%
0.3%	大幅に下降	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.7%	0.5%	0.0%	0.0%
9.9%	わからない	7.0%	7.0%	8.6%	9.8%	11.4%	12.5%	10.0%	10.9%
0.1%	未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%

# 地域密着を信条とした78か店のネットワーク

## 店舗のご案内

### 北おおさか信用金庫 店舗配置図



※地図はイメージです。

#### 店外 ATM

- ◆ 吹田市水道部出張所
- ◆ 吹田市役所出張所
- ◆ JR 吹田駅前さくす出張所
- ◆ イズミヤ千里丘店出張所
- ◆ メロロード吹田出張所
- ◆ イオン南千里店出張所
- ◆ フレンドマート岸辺出張所
- ◆ 千里丘駅出張所
- ◆ イオン高槻店出張所
- ◆ セントラルマーケット出張所
- ◆ ダイエー摂津富田店出張所
- ◆ フレンドマート高槻美しが丘店出張所
- ◆ チャオパルコ芥川出張所
- ◆ 阪急オアシス高槻川西店出張所
- ◆ フレンドマート高槻川添店出張所
- ◆ ジョーシン高槻大塚店出張所
- ◆ 関西スーパー西冠店出張所
- ◆ サボイ出張所
- ◆ マルヤス宮田店出張所
- ◆ コープ島本出張所
- ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所
- ◆ コープ茨木白川出張所
- ◆ イオン新茨木店出張所
- ◆ 豊中市役所出張所
- ◆ チャオパルコ豊中出張所
- ◆ 小曾根出張所
- ◆ イオンタウン豊中緑丘SC出張所
- ◆ イオン箕面出張所
- ◆ 関西スーパー瑞光店出張所
- ◆ 三国商店街出張所
- ◆ 神崎川駅前出張所
- ◆ イオン高見店出張所
- ◆ 毛馬出張所
- ◆ イオン大日SC出張所
- ◆ ホームズ寝屋川出張所
- ◆ 菅原出張所(旧菅原支店)
- ◆ 宮原出張所(旧東淀川支店)
- ◆ 大池出張所(旧大池支店)
- ◆ 立命館大学 大阪いばらきキャンパス出張所
- ◆ 庄内栄町出張所
- ◆ さらぼーとEXPOCITY店出張所
- ◆ ご相談プラザ チャオパルコ豊中

**営業地域(地区別)** 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡  
 兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡  
 京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 平成28年10月31日  
 発行 北おおさか信用金庫 総合企画部  
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32  
 電話 072-623-4981(代)  
 ホームページ <http://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>  
 編集 株式会社 大阪彩都総合研究所

